



1353 「運慶・快慶を知っているか？」10/12

文部科学大臣賞を受けた小学6年生取材した番組。この子、仏像のことにくわすぎる！

仏師の話で、司会者のサンドイッチマンが「運慶、快慶って誰？」言ったことに対して

私「え！知らないの！」

運慶・快慶が作った仁王像

妻「私も知らない。」

私「小学校・中学校の社会科で学んだら！？」

妻「古いことを覚えていたら、新しいことを覚え

られないとテレビで言っていた。」

* 短い時間に記憶する能力のことです。

くり返す学校の学習ではあてはまりません。

私「中学校の修学旅行で東大寺の仁王像を見た

だろう？説明もあつたら？」

妻「覚えていない。」

私は修学旅行で見た運慶・快慶が作った像をすごいと感動して記憶しました。

私「子どもころに覚えたことは忘れない。」

妻「関心がなくなったら忘れてしまうでしょう？甥っ子は子どもの頃、太鼓台の写真を見て、どこの太鼓

台か全部言えたけど、今は言えない。」

これには納得。それでも消えない記憶はあります。

中学1年生の時に覚えた光速度、秒速29972.5kmを今でも覚えています。

私「使わない知識は消える。思い出さない記憶は忘れる。だよな。」

学んだことは生活の中で使いましょう。そして感動の多い生活をしましよう。



1354 4年 Aさん「学校の多くの人知らないこと」10/15

1、学校のチャイムには、実は歌詞がある。

2、理科室のいすに背もたれがないのは、何かあった時にすぐに逃げられるため。

3、給食の前に、安全を確かめるために毒味がされている。

私は知った時に「確かに」と思ったり、びっくりしたりしました。

この中で私が一番なっとくしたのは2番の「理科室のいすに背もたれがないのは」です。

★ 久々の自主レポートです。1番、2番はもっと調べてほしいです。

理科室のいすの座り方が悪くて、いすを倒して転げる子がまだいま

す。危険です。いすが重く、音が大きいのでまわりに迷惑です。安全に座りましよう。

重い！





1355 「カマキリムシ？」10/15

朝、4年生がカマキリを理科室に持ってきました。

「袋をください。」

「カマキリのお尻を水につけたらハリガネムシが出てくるかも。」

「先生、何度も聞いているので知っています。」

「苦手な子に見えないようにロッカーにしまっておくように。」

1時間目が始まる前、カマキリの入った袋は

理科室に届けられました。

「カマキリムシが出てきて気持ち悪いので理科室で預かってください。」

カマキリムシ？カマキリが嫌いな子もいるからなあ。と思って預かりました。

その後、4年生の一人が取りにきました。カマキリを別の容器に移して帰らそうとしたら、

「まだカマキリムシが残っています。」

カマキリムシ？カマキリムシのこと？袋を確かめると丸まった黒い太い糸が残っていました。

「えー！ハリガネムシが出てきたの！見たかった！」

カマキリムシはハリガネムシでした。



ハリガネムシにはこだわりがあるので続きます。

最初の出会いは20年前。「ゆらぎの森」(別子山)の作楽工房お裏にある池で子どもが見つかりました。長さ10cmのヒモ。触るとゴムみたい。目も口もないけどゆっくり動く。生き物???

二度目は5年後の三島東中での修学旅行。奈良の東大寺大仏殿の参道脇の水路。生徒が見つかりました。京都青少年科学センターで質問して、ハリガネムシと分かりすっきりしました。

ハリガネムシはカマキリのお腹で育ちます。育ったハリガネムシはカマキリをコントロールして水辺に行かせます。そこでカマキリのお腹から出て水の中に入ります。だからカマキリのおしりを水につけるとハリガネムシが出てきます。最初に見た時は感動しました。でも、受け止め方は人それぞれです。

黄色の粒がハチのまゆ。

中にさなぎが入っています。3年生で学習するモンシロチョウに寄生するハチがいます。



アオムシコマユバチです。

気温の低い春は安全ですが、夏になると100%近くの幼虫が寄生されます。寄生されると幼虫は死にます。わずかに残った幼虫が翌年に命をつなげます。このハチ、キャベツが身を守るために呼び寄せます。立場が違えば、味方にも敵にもなります。



1356 「台風19号の被災ニュースを見て『テレビに映りたいから』?『楽しそう』?」10/17

5年は「流れる水の働き」の単元に入ります。

川のことで。授業の導入で、台風19号の災害のニュースを見せました。海のようになった住宅街。1階が水没。2階から助けを求めて白い布を振る被災者の場面で。

「これってテレビに映りたいからしている。」

「楽しそう。」

バラエティー番組を見ている感覚に残念な気持ちでいっぱいになりました。

「この人たちは命がけです。恐怖でいっぱいです。」

私自身の新居浜水害の被災体験、災害ボランティア体験を話しました。新居浜水害、東日本大震災、西予市の水害。そこに行って現場を見て、復旧のお手伝いをすれば、被災することがどれほど大変なことかを実感します。

被災は台風、津波、大雨が過ぎれば終わり、ではありません。元の生活を取り戻すために多くのお金と時間がかかります。失われた命は決して取り戻せません。

台風の進路が当初の予想より北に動いていれば、ここが被災地です。他人事ではありません。

どんな気持ちでタオルをふっているのか



床下の泥のかき出し



湿った泥は重いし、奥は潜り込んで泥出し服は泥だらけになります。

1357 3年 「輪ごむを遠くに飛ばすには」10/16

○ 今日のはじめて作る「ごむてっぼう作り」でした。作ってみてむずかしいところは、班で協力したり、ほかの班の人

も手伝ってくれたので楽しかったです。

○ ゴムてっぼうを作ってよかったです。むずかしかったです。わごむをがんじょうにつけるのが、一番大変でした。

○ 手でごむをとばすのは、力をいっぱいいたら、けっこうとびます。また、ごむてっぼうのじゅぎょうをしたいです。

○ ごむてっぼうを、いっぱいごむをくくって、力いっぱいできました。がんばって作れたのでよかったです。

★ 割りばし銃の前に、手で輪ごむを飛ばす遊びをしました。しっかり輪ごむを伸ばす体験をたっぷりさせておこう考えたからです。全員できると思っていたら、できない子が多いことにびっくり。輪ゴムで遊ぶことがないからだね。でも、この体験の効果で、割りばし銃作りでは、しっかりした物ができました。シドニー先生には「珍しいかな?」と思ってプレゼント。「怖い!」と言っていました。



